

Allergic Rhinitis Web Seminar

2022年

6月7日(火)

19:00-20:00

講演 1 19:00 – 19:25

時計じかけのアレルギー:アレルギーと体内時計の密接な関係

中尾 篤人 先生 山梨大学医学部 免疫学講座 教授

花粉症や喘息、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患では症状が夜間に起こりやすいという特徴があります。私たちは、睡眠や体温、ホルモン分泌などの24時間周期性のリズムを司る体内時計が、アレルギー反応をコントロールしていることを明らかにしました。これによりアレルギー疾患の症状が夜間に起こりやすくなると考えられます。一方、体内時計は、睡眠不足、過食、運動不足、ストレスにより、そのリズムを乱します。よって、アレルギー疾患では、それら日常の行動が症状に影響します。また薬も夜間に症状が出やすいことを考慮し服用することが大切です。本セミナーでは、アレルギーと体内時計の関係についてわかりやすくご説明します。

講演 2 19:25 – 19:50

通年性アレルギーの患者への処方提案

岡野 光博 先生 国際医療福祉大学成田病院 耳鼻咽喉科 教授

通年性・季節性に限らずアレルギー性鼻炎患者に対する処方は、重症度と病型によって選択されますが、その選択は画一的なものではありません。一般的にはくしゃみ・鼻漏の強いタイプでは抗ヒスタミン薬を用いる場合が多く、鼻閉の強いタイプでは抗ロイコトリエン薬などを用います。重症例では鼻噴霧用ステロイド薬が頻用され、血管収縮薬の使用も考慮されますが、点鼻用血管収縮薬の場合は長期使用を避けます。また処方薬の有効性を向上させるために、抗原除去・回避の指導を行います。その他、今回の講演では小児例や高齢者への処方提案についても述べる予定です。

質疑応答 19:50 – 20:00

本説明会はzoomにてLIVE配信をさせていただきます。ご視聴登録は下記URL・二次元コードより受け付けておりますので、ご登録ください。ご視聴方法の詳細は裏面をご確認ください。

<https://www.hisamitsu-pharm.jp/seminar/detail/seminar61.html>

